

第一章東京タワー

東京タワーの展望台でゲリラで師匠とショーをする
警備、保安上の問題からひどく怒られる
きっかけ：男が東京タワーによじ登って彼女に愛の告白をした事件
師弟関係が逆転していたことに痛みを感じ、提案した

第二章予備校

受験生だった筆者は早慶英語コースを予備校で受講していた
その授業のうち 10 分間先生の世界観などについて語っていた
一着の服を掲げ、ファンションには伝える力があると語った
これが筆者のファッションの原点である
服を作った神田と出会う
神田と同じ早稲田大学社会科学部に進学 神田を勝手に師匠に
京王井の頭線でショーを開催
→服に力があることを知る 服は日常を変え、人を変える

第三章アンリアレイジ命名

ANREALAGE = A REAL + UN REAL + AGE
日常：日々の生活
非日常：見過ごしてしまう、ちっぽけな物事 (× 非現実的)
時代：時 日常と非日常の境目をなくす
UN ではなく AN/A
↑ a little/a few をイメージしてもらいたかった
“ほんのすこし” “ほんのすこしの非日常
藤子・F・不二雄の「SF(すこしふしぎ)」

人原理有 (ニン・ゲン・リ・アル)
服は人に原理があるという意味をこめた
人：ヒューマン、原：オリジナル、理：ロジック、有：リアル
弁証法：テーゼ (正)、アンチテーゼ (反)、アウフヘーベン (合)
考えて「命題」を立て、さらに考えて「反命題」を立て、
それらを「統合」できるように考え尽くす → 服づくり

パッチワーク 真木くん

第四章神は細部に宿る

神は細部に宿る＝パッチワーク：小さな端切れを繊細に繋ぎ合わせる
→目の前を通り過ぎてしまうほど小さなものに夢中になること
服は言葉を発せない
→デザイナーは服のことを伝えようとする (テーマ・コンセプト)

第五章AとZを重ねる

A と Z を重ねただけのロゴマーク
大学時代を共に過ごした武藤くんデザイン

第六章パリコレクション

2014「SHADOW」
白から黒へ 光が当たると色が変わる テクノロジーの応用
→リハーサルで黒くならない、
そもそも光を当てて影を作り出す、黒い服を見せるショーではない
ショーが 20 分遅れで始まるも、途中から拍手喝采、大成功
一夜明け、最先端テクノロジーを駆使する
日本のブランドとして注目された
ファンションコーディネーター大塚博美さん、作家の伯父、
叔父の妻ミロさんが縁となってつながり、
パリコレ公式面談の機会を得る
→成功し、異例の最初から公式スケジュールに登録された

第七章発想のヒント

トルソーに合うから、人に合うわけではない
服が人に合わせているのではなく、人が服に合わせている？
頭、両腕、胴体を通る 4 つの穴が開いていれば着られる
→○△□ 球体、三角錐、直方体を人に見立てて服を展示
次は色
文字の消せるボールペンのインクで服を染めたら？
→白い服から光を当てて、色鮮やかに 「color」
発想力は行動を伴って初めて実を結ぶ

第八章色とかたちの非日常

ファッションは各シーズン変化する
→丸刈りにし、信じたものを体に残す、記憶の刻印
フラッシュで写真を撮ると浮き出る色彩、柄 「reflect」
→“光” を扱うブランドとして認知
一回光と影のテーマから離れるも、再びテーマに
→「黒」「透明」に注目
→クリアブラックカラー「光がない色」対局の 2 色が共存
既存の技術をファッションに「開発する」ように
再び” 神は細部へ宿る” を見直す

第九章自然と共生するテクノロジー

LVMH コンテスト
優勝者には 30 万€、1 年間の支援→ファイナル進出
テーマ「光合成」骨が地球の一部になり自然と化すイメージ
微生物に糸を食べさすファッション
→好感触だったものの、優勝は逃す
しかし FENDI とのコラボすることに
白いコートをイタリアの太陽を表す FENDI の黄色へ

第十章コロナ時代のファッション

コロナ→ファッションにできることは何か？
アンリアレイジのファッションを
「日常を変える装置」→「日常を取り戻す装置」にする必要がある
2m のソーシャルディスタンスを確保し「移動可能な家」を服に
オンラインショーを開催
朝霧自然公園で富士山を背景にパリコレ動画配信
今までのコレクションに繋がる